

いずくら雄太県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

市原に救命救急センターを

3次救急整備は市民の念願

県「設置の必要性認識」

若さに期待する大勢の市原市民の後押しで県議会にデビューした伊豆倉雄太県議は、野球やラグビーで培った行動力で、住み良いふるさとづくりを全力を挙げています。12月定例県議会では一般質問を行い、壇上から「市原保健医療圏に救命救急センターを」と訴えました。また、千葉県の観光振興を取り上げ、「県は今後も新たな観光資源の発掘を行っていくのか」と森田知事に質問しました。伊豆倉県議の質疑と森田知事らの答弁を特集します。

12月定例県議会一般質問



県議会で登壇し一般質問を行う伊豆倉雄太県議

伊豆倉議員 千葉県には高度な救命医療を行う救命救急センターが9つの保健医療圏で合計11施設整備されている。

市原市の医療機関では帝京大ちば総合医療センターや千葉労災病院が、各々年間約3千人の急患者を受け入れており、その他にも

県循環器医療センターや五井病院、榎田病院など合計8つの病院が連携・協力して約1万2千人もの救急患者を受け入れている。どの病院も非常に厳しい医療体制の中で、何とか対応していたというのが現状。

ただ、これまでになかなか整備が進まなかった圏域であり、市原保健医療圏への救命救急センターの整備に向けて、なんとか、県や市

における重篤患者の一部については、近隣保健医療圏の救命救急センターで受け入れていただいていると聞いている。

保健医療担当部長 千葉県保健医療計画では、救命救急センターが未整備の保健医療圏において、その設置を検討することとしております。

いずくら雄太・PROFILE

- 略 歴 ■
- 昭和58年生まれ
- 平成11年 市原市立加茂中学校卒業 (野球部在籍・キャプテン)
- 平成14年 私立志学館高等部卒業 (ラグビー部在籍・キャプテン)
- 平成18年 東洋大学法学部卒業
- 平成27年 県議会議員初当選
- 所属団体 ■
- 市原市消防団
- 一般社団法人市原青年会議所



伊豆倉県議の初登壇に傍聴席はぎっしり

伊豆倉議員 私の住んでいる地域では、重症・重病患者がドクターヘリで他の医療圏へ搬送されるのがたびたびある。市原保健医療圏の県民にとって3次救急は念願であり、救命救急センターがあるというのは大きな安心につながると思う。非常に高いハードルであるとは思いますが、引き続き市原保健医療圏の3次救急の設置ができるように支援をお願いします。

伊豆倉議員 市原保健医療圏の3次救急を今後どのようにしていくのか。保健医療担当部長 救命救急センターについては、高度な救急医療に精通した専任医師の配置や、20床以上の救急専用病床の確保などの指定基準を満たすことが求められます。現在のところ、市原保健医療圏には指定基準を満たしている医療機関はございませんが、本医療圏における3次救急医療体制の充実を図るため、引き続き関係する医療機関や市原市などと協議を重ねてまいります。

●お近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください

〒290-0081 市原市五井中央西2-11-5
いずくら雄太 県議事務所
 TEL.0436-37-1777 FAX.0436-37-1331

観光ニーズの多様化に対応

「観光資源を発掘 磨き上げていく」

森田知事



議場の自席で再質問をする伊豆倉雄太県議

に対応できる資源を発掘し、磨き上げていく必要があります。

このため、県では、市町村、観光協会、民間事業者などで構成する「ちばの観光掘り起こし隊」を中心に、県内各地で新

伊豆倉議員 観光は、目的地やお土産、食べ物だけでなく、お土産を作る産業、食事を提供する材料を作る農家、目的の地まで行く交通手段等、多くの産業が関わる大きなマーケットである。観光による波及効果を県民も期待している。

本県は首都圏にありながら、多くの自然を有する県でもある。自然を有効活用したトレイルランやサイク

リングなども注目されている。水辺を利用したカヌー、林道を利用したマウンテンバイク、ホテルや天体観測など多くの魅力がまだまだ千葉県には眠っている。

後にも新たな観光資源の発掘を行っていくのか。知事 近年の観光は、団体旅行から個人旅行への移行、趣味やレジャーの多様化等により、従来の観光施設中心の観光とは違い、スポーツ、アニメ、グルメ、ドラマロケ地など、これまでは観光資源とは見なされていなかったものが新たな観光資源として注目されるなど、そのニーズは多様化し

イノシシの捕獲 市町村が合同で

伊豆倉議員 有害鳥獣対策についてうかがう。イノシシについては、市町村を越えた広域的な取り組みにより、捕獲を一層推進していくべきかと思うがどうか。

環境生活部長 複数の市町村が連携して捕獲に取り

組むことは、イノシシなど広域に移動する野生動物の捕獲を行う上で有効であると考えています。

また、捕獲の担い手が減少する中、市町村間で捕獲従事者が相互に連携することにより、捕獲体制が強化

されることを期待されます。既に、県内の一部地域において、複数の市町村が合同で一斉捕獲を行うなど広域的な捕獲が実施されており、賛同いただいた企業において

高校生が県内企業知る機会に

キャリア教育

伊豆倉議員 県として今後のキャリア教育をどのように行うのか。

教育長 県教育委員会では、第2期千葉県教育振興基本計画において、キャリア教育を重点的取り組みとして位置付け、子供の発達段階に応じて積極的に推進しています。

各学校においては、地域の企業や商店等で実際に仕事を体験し、働くことの喜びや大変さを学ぶ職場見学・職場体験等の学習に取り組んでいるところ。例えば、商店での接客の他、企業での製品管理業務なども実施されているところ。このような職場体験が、県内公立中学校の97.9%で実施されており、

体験活動を行うことのできるプログラムの充実を図るなど、勤労観、職業観を育むキャリア教育の更なる充実に努めてまいります。

再質問

伊豆倉議員 千葉県の持つ高いポテンシャルを生かしたキャリア教育を行うというところで、進路を考えたときに、高校生が県内の企業について知る機会が大切になると思うがどうか。

教育長 県教育委員会では、高校生が将来進む可能性のある仕事や職業に関する活動を産業界の現場等で体験する「インターンシップ」を推進している他、千葉労働局と連携して「新規高卒予定者合同面接会」を実施するなど、生徒の進路実現に向けて支援をしているところ。

今後とも、このような取り組みを通じて、高校生が県内企業を知る機会を一層充実させる等、キャリア教育の推進に努めて参ります。

大する中、防護柵の効果をより高めるためには、またまりのある区画や集落単位で計画的に整備していくことが重要と考えています。

このため、県としては、事業の実施主体であり、地域の実情を把握している市町村協議会に対し、計画の検討から事業実施に至るまで、必要な助言・指導を行うなど、防護柵の設置がより効果的なものとなるよう、

京葉臨海コンビナート 投資促す環境整備

伊豆倉議員 千葉県地方創生「総合戦略」において、京葉臨海コンビナートの競争力強化に向けて、今後ど

のように取り組みを進めていくのか。

知事 京葉臨海コンビナートは本県経済の要であり、その競争力強化を図ることは、県経済の活性化を図る上で大変重要であると考えています。

このため、千葉県地方創生「総合戦略」においても、コンビナートの競争力強化を重要な柱として位置づけ、マザー工場化に向けた再投資支援や、コンビナート事業に係る規制改革の検討と国への働きかけなど、新たな投資を促す環境づくりに向けて、県、地元市、立地企業が一体となった取り組みを進めているところです。

今後は、新たに、人材育成などの基盤業務について企業間連携による共同化の促進に向けた検討を進めるなど、中小関連企業も含めた事業所の負担軽減や新規事業展開に資する環境づくりを更に進めながら、引き続き、コンビナートの競争力強化を図ってまいります。

伊豆倉議員 京葉臨海コンビナートの

ある自治体には、新たな投資に伴う税収のアップがあると思う。是非、引き続き、企業や自治体から改善要望などを吸い上げて、企業や働き手の方々の仕事のし易い環境の整備、規制改革の検討、国への働きかけなど、県からのご支援をお願いする。